

どんな時に発表するの？

最大震度5弱以上を予想した時に、震度4以上を予想した地域に対して緊急地震速報(警報)を発表します。

以下の手段で専用の報知音とともに伝えられます。



テレビ・ラジオ



携帯電話・スマホ*



防災行政無線

この他、知りたい場所の震度や猶予時間を入手できる受信端末、スマートフォンのアプリなどのサービスもあります。

*一部対応していない機種があります

報知音

緊急地震速報の報知音をあらかじめ試聴しておき、聞いたときにとっさに身を守る行動がとれるようにしておきましょう。

報知音の主なものには

- ・テレビやラジオ、防災行政無線などで使用されている「チャイム音」
 - ・携帯電話会社共通の「ブザー音」
- があります。

気象庁ホームページ内には、報知音の試聴ページへのリンクを掲載しています。

「緊急地震速報を見聞きした時は」

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nc/koudou/koudou.html>

ご利用にあたって

- 震源に近い地域では、緊急地震速報の発表が強い揺れに間に合わないことがあります。
- 緊急地震速報で予想する震度は、±1階級程度の誤差を伴います。震源が観測点から遠い場合や深い場合は、誤差が大きくなる場合があります。

❖ ご注意ください! ❖

気象庁が、国民のみなさまに受信端末の設置を義務づけたり、直接設置に伺ったりすることはありません!

● 緊急地震速報は、公益財団法人鉄道総合技術研究所と気象庁による共同技術開発と、国立研究開発法人防災科学技術研究所による技術開発の成果により可能となりました

【お問い合わせ先】



気象庁

〒100-8122 東京都千代田区大手町1丁目3番4号

電話: (03) 3212-8341 (代表)

FAX: (03) 6689-2917 (耳の不自由な方向け)

気象庁ホームページ <https://www.jma.go.jp/>

緊急地震速報について <https://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nc/index.html>

詳しくは



気象庁 緊急地震速報

検索

このリーフレットは、印刷用の紙へリサイクルできます。

平成30年3月

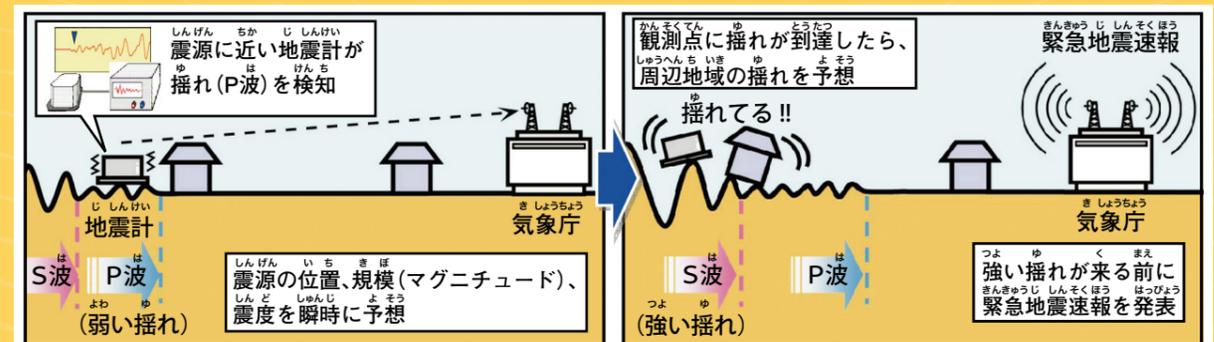
いのち
ぼくたちの
命をまもるおしらせだ

高知県 北岡七海さんの作品

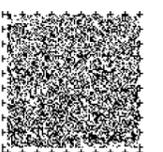
きん きゅう じ しん そく ほう
緊急地震速報

じ しん つよ ゆ じ ぜん し
地震による強い揺れを事前にお知らせ

緊急地震速報のしくみ



気象庁



音声コード

周囲の状況に応じて

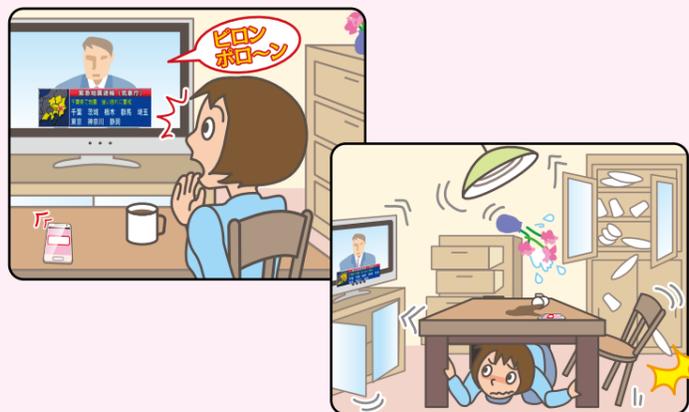
あわてず、まず身の安全を!!

緊急地震速報を見聞きしたら...
(地震の揺れを感じなくても)

地震の揺れを感じたら...
(緊急地震速報がなくても)

家庭では

- 頭を保護し、じょうぶな机の下など安全な場所に避難する
- あわてて外へ飛び出さない
- むりに火を消そうとしない



鉄道・バスでは

- つり革、手すりにしっかりつかまる



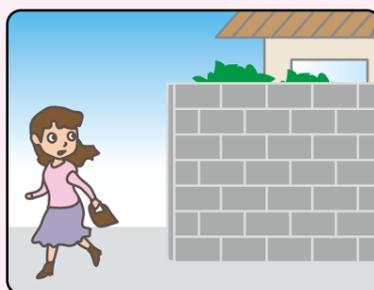
エレベーターでは

- 最寄りの階に停止させ、すぐにおりる



屋外(街)では

- スロッキ塀の倒壊に注意
- 看板や割れたガラスの落下に注意



自動車運転中は

- 急ブレーキはかけず、ゆるやかに速度をおとす
- ハザードランプを点灯し、まわりの車に注意をうながす



上記のほか、訪れた施設等において緊急地震速報を見聞きした時は、身を守り、係員の指示に従ってください。

入手手段	【警報】 テレビ・ラジオ 携帯電話(緊急速報メール) 防災行政無線など
基準	震度5弱以上を予想 (震度4以上の地域に発表)
内容	震源地、強い揺れが予想される地域など
特徴	原則、一つの地震に対して1回発表 比較的規模の大きい地震では複数回発表

テレビ・ラジオ
携帯電話(緊急速報メール)
防災行政無線など

画像提供 NHK

震度5弱以上を予想
(震度4以上の地域に発表)

震源地、強い揺れが予想される地域など

原則、一つの地震に対して1回発表
比較的規模の大きい地震では複数回発表

人が強い揺れから身を守るために活用

【予報】

専用受信端末
スマホ(アプリ)など
※民間事業者が提供

震度3以上を予想
マグニチュード3.5以上と推定

震源地、地震の規模、予想震度、強い揺れの到達予想時刻など

予想内容が変化する度に、複数回発表
知りたい場所の震度や猶予時間がわかる

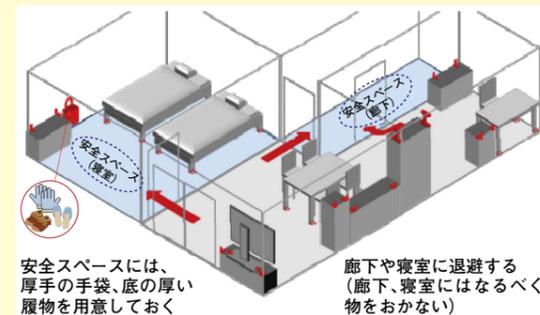
主に列車や機器の制御などに活用

日頃からの備え

1 「安全スペース」を作っておきましょう

地震の揺れに備えて、寝室や居間など室内のよくいるところに“物が落ちてこない、倒れてこない、移動してこない”スペースを作っておきましょう。

詳細は東京消防庁ホームページ「家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック」を参照してください。



安全スペースのイメージ(共同住宅の例)

2 訓練に参加しましょう

6月及び11月5日(津波防災の日)前後に緊急地震速報の訓練を実施しています。訓練を行うための動画やスマートフォンのアプリ*もありますので、これらの機会やお住まいの自治体が行う訓練に参加して、定期的に地震から身を守るための対応行動を身につけておきましょう。

* 緊急地震速報訓練を実施するための映像・教材など(気象庁ホームページ)→



シェイクアウト訓練

主催者(主に自治体)が、“科学的な地震災害のシナリオ(訓練の想定)と日時を決めて、「訓練会場」を限定しない”のが特徴の訓練です。参加者は、決められた日時に職場・学校・家庭等のいつも過ごす場所で、シナリオに合わせて地震から身を守るための訓練をします。

詳しくは下記ホームページをご覧ください。

効果的な防災訓練と防災啓発(シェイクアウト)提唱会議 <http://www.shakeout.jp/>



地震発生時の安全確保行動1-2-3(①まず低く ②頭を守り ③動かない)
出典:効果的な防災訓練と防災啓発提唱会議